

## 第4回 小中一貫教育校検証部会 会議要録

開催日時	平成 26 年 2 月 26 日（水） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	
会 場	練馬区役所 1906 会議室	
出席者	委 員	酒井朗 木下川肇 田頭裕 池田和彦 堀田直樹 羽生慶一郎
	協力委員	伊藤秀樹
	事務局	教育振興部教育企画課、教育指導課統括指導主事
傍聴者	なし	
案 件	1 第3回小中一貫教育校検証部会会議要録について 2 検証項目および検証資料について 3 平成 26 年度の検証計画について	

### 事務局

練馬区小中一貫教育推進会議第4回小中一貫教育校検証部会を始めたいと思います。

案件に入る前に、学校評価の情報提供ということで、校長先生、お話をいただけますでしょうか。

### 委員

本日は、昨日の本校の学校評議員会で配布した2つの資料をお持ちしました。

1つは学校だより臨時号です。学校評価についてまとめたものをホームページなどに出すとともに、こういう形で臨時増刊号で保護者に周知しています。2月28日付となっておりますので、まだ保護者の方には伝わっているものではありません。昨日が評議員会だったということで配りました。学校評価のデータについて、一定の説明をさせていただきますので、公式コメントとして、いわば解説書のように思ってくださいと思います。

児童、保護者、教職員のアンケートを行っています。

学校経営の重点ということで、重点1から6までございます。いつも年度当初、学校だより等で私が重点6項目について学校運営をしていくと説明しておりますので、それに基づいて学校評価をしていただくという視点で、このような設問にしています。

例えば問1。学校に楽しく通っていますかということで、児童、保護者、教職員に聞いています。左側の帯グラフが児童・生徒、保護者、教職員です。右側のグラフは、3年生から9年生を示しています。1、2年生にアンケートはやっていません。

同じような表が上と下に分かれています。上が昨年度のデータ、下が今年度です。「学校に楽しく通っていますか」という質問で、今年のほうが伸びていますので、子どもたちは全般的に楽しいと喜んでくれている子が多いという状況です。ただ、全体には楽しいと感じていても課題になるお子さんたちがここから漏れていたらまずいわけですので、それを補足するため本校ではQ-Uテストという学級の組織の満足度調査を行っています。

その分布で、ある一定の集団から外れると、この子がどの位置にいるかということは個別にわかってきますので、個別対応できるようにしています。これはあくまで全般的なデータと見ていただければと思います。

問2も「授業がよくわかり、自分から進んで参加していると思いますか」ということで、よくわかるという子の数が伸びているのと、2番目の大体思うという子も含めると、4分の3ぐらいはいつているのかなと思いますが、全く思わないという子もいるわけですから、学校経営として満足できるかどうかは、こういうところからはわからないと思っています。

この検証委員会のデータになり得るのではないかなと見ていただければと思います。

指導法の工夫改善、児童・生徒の能力の伸長については、5、6年生のみ聞いています。問16の「50分授業は学習するのにちょうど良い長さだと思いますか」という設問では、残念ながら、そう思うという子が本年度は減っています。だからこれはやはり考えてみないといけない点だと思います。

今年の5年生が50分授業が長いと感じるのか、きついと感じるのか。教員にとっても子どもにとっても、5分間延ばしていることが、まとめの学習をやったりという点ではいいという受けとめ方の数値は出てきているのですが、授業の展開の仕方になると、この5分がきついよなとなれば、原因がどこら辺にあるのか、まだ私が十分にはつかみ切れていません。

問17の回答をみると理科、社会が本校では一部教科担任制ですので、専科の授業も入れるとかなりの教科は教科担任制になっています。学級担任は理科、社会は大体入れ替えているのですけれども、大体同じような数値が変わらずに出てきていると思います。

昨年度と今年度を比較しながら見ていただければ、一定の方向とか成果と課題もわかりやすいただろうと思って、本日お持ちしました。

#### 部会長

ありがとうございます。非常に参考になる資料です。ご質問等ございましたら、お願いします。

「学校に楽しく通っているか」という質問は、楽しく通っているという回答が非常に伸びているのですね。

#### 委員

重点の2。異年齢集団の交流と学び合いの項で、「飯ごう炊さんや縦割り活動をこれからも続けたいと思いますか」という問いがあります。5年生から9年生まででやっていたのだけれど、5年間続けていくのはどうかということ、役割分担を明確にしていくという観点から、今年から8年生、9年生を飯ごう炊さんから外しました。

そうしたら、8～9年生からやはりやりたいという声が結構でてきます。外れてしまったから、そういう数値として見ることは難しいですね。8～9年生には論文、卒業制作というもっとハードルが高いことをさせているので、数値としてこんな数値が出てしまうのかなという気がしています。

#### 部会長

50分の授業は、昨年度と比べますと少し肯定的な評価は減っていますが、全体で見れ

ば、かなりの割合の子どもたちが 50 分授業で、ちょうど良いといっている。大体 50% ぐらい、6 年生ですと 50% 近い。わからないという子どもたちがかなりいますので、それを差し引くと、過半数は肯定的に捉えているかなと見られると思います。

教科担任制はかなり評価が高いですね。

#### 委員

その他のところの質問に対しても、ある程度、正直な数字が出てきているのかなと思います。問 19 の「担任の先生や相談室の先生は悩みの相談を熱心に聞いてくれると思いますか」という設問に対して、わからないという回答が 7、8、9 年と学年が進むにつれて多くなっています。

悩みがあったとしても、好き嫌いや信頼とは関係ないけれども、相談室の先生のところに行かないよという子だっています。だから、自分はそういうことを拒否的ではないけれども、別に肯定的でもなく、そういうふうにしたことがないからわからないというか、そんなに相談することもとりにあえまないから、こう聞かれてもわからないということで、わからないと答えているのかなと想像しています。

ただしメンタリティを中心に課題があるかもしれないので、Q - U テストで分析的に個人の課題を補足するようにしています。

Q - U テストの「クラスの中で自分のことを褒めてもらったりすることがありますか」という質問で、ありますに丸を付けている子はクラスの中の望ましい集団の中に入ってくるのですが、嫌われる言葉を言われるとか、褒められることもないとかとなってくると、どんどんそのグループから離れていってしまう。検証データとしては出すのは難しいと思いますが、そういうデータがかなり正確には出てきます。

#### 部会長

ありがとうございます。

またこれについて、後で触れることもあるかもしれませんが、先に進ませていただきたいと  
思います。

#### ( 1 ) 第 1 回小中一貫教育校検証部会会議要録について

#### 部会長

第 3 回の小中一貫教育校の会議要録について、事務局からお願いいたします。

#### 事務局

本日、会議要録がお配りできる状態まで準備が間に合っておりません。後ほど送付いたしますので、内容を確認していただき、何か修正事項がありましたら、事務局にご連絡いただきたい  
と思います。

#### ( 2 ) 検証項目および検証資料について

部会長

2番目の検証項目および検証資料について、事務局から説明をお願いします。

事務局

( 資料の1、2、3 説明 )

部会長

幾つか資料がありまして、順番に考えていきたいと思います。まず資料1をごらんください。前回の話し合いに基づいて、事務局のほうで作成していただいた資料です。基本方針の確認というところでできた意見等を文言化したものがここに載っているわけですが、この資料1について、この確認でいいかどうかということをご検討いただいて、資料2に移りたいと思います。

委員

卒業小学校別等の比較はどういう意図ですか。

事務局

卒業小学校別というところは、学校生活アンケートによって、大泉学園緑小学校出身の生徒が7年から入って、どのような反応をしているかというところを抽出するのがメインでございます。学校選択制などで他校から来た生徒の状況を把握するという狙いがございます。

委員

わかりました。

この前の部会でも、そのことは結構、話題になりましたよね。

部会長

なりました。中学1年として7学年に入る。そこで5年生から部活をやっている子たちと一緒に部活をやるとか、いろいろな形で学校生活に入って行くわけですが、そういう子たちが下から上がってきた子と接した場合に同じこともありますし、特に7学年の学校生活に対する考えが違ってくることがあるのではないかとということだと思っておりますけれども。

ここも再度ご相談ですが、こういう形でアンケートという形をとると、個別にこの子はどこからの卒業生かということがわかりますから、出身校で分けて、比較することはできるのですが、どこまでアンケートをとるかということが課題になります。

委員

データとしてはとても必要なデータだろうなということは感じます。

委員

大泉学園緑小の校長として、この辺はどうなっているのか非常に気になります。結局、中学2年、3年では混ざってしまって、大泉桜学園というふうになると見えていますけれども、本校

の卒業生たちは、恐らく7年のときには、いろいろな抵抗感があったりとかするかと思うのですが、8年、9年と経年変化をみていければいいと思います。

部会長

経年変化で、だんだんなじんでいくという過程をみていく必要があるということですね。

委員

そういう変化していく姿が見られるのではないかなと思うのです。

部会長

24年度に7学年で入った生徒であれば追えます。あるいは25年度に入った生徒も、7年、8年とは追えますので、そのあたりで経年変化を見ていくことはできると思います。

それが下から上がってきた子とどう違うのか。あるいは8年生になるともうみんな一緒になってしまうことも十分考えられます。そういう状況であれば一つ、学校生活に十分適応できているという話にはなりませんね。

26年6月の資料は、来年の夏休みぐらいにしか資料が出てこないのですが、24年、25年の資料は大丈夫ですか。

事務局

はい。

部会長

内部の作業として、24、25年度について、大泉学園緑小も含めた他の小学校から7学年に入ってきた生徒たちと桜小学校から上がってきた生徒たちを2群に分けて、どういう傾向にあるか簡単な比較を行うというのはすぐできますので、そういうことをアンケートとは別に内々にデータを見るということはできると思います。その上でこれをどういうふうに検証会議にかけていくのか考えても十分作業的にはできます。

24、25年度はデータとしてはいつごろ上がってきますか。

事務局

依頼はしておりますが、期限は切っておりませんので、今後調整をしたいと思います。

部会長

単純な比較でしたら、すぐできると思います。

委員

数字の比較はすぐできると思うのですが、解釈は非常に難しいと思います。あまりにも順応がすみやかにできてしまうようであれば、小中一貫教育に取り組む必要があったのかというような議論にもなりそうです。かといって適合がうまくいかず、最後まで残っていると、やはりこれは問題ではないかということになります。小中一貫教育校としてしっかりしたものがあっ

て、そこに入っていった結果、こうなったというところをちゃんと言ってもらったほうがいいようにも思います。

**部会長**

検証資料の(2)のところで書いてあることがまさにそういうことなのです。効果と課題についていろいろな解釈の可能性がありますので、資料をどういう形で検証会議の場に出すのかは、十分検討する必要があると思います。

**委員**

お話があったように、解釈をどういうふうにするか、見通しがないとすごく厳しいと思います。この会があるからではないのだけれど、大泉桜学園で大泉学園緑小のお子さんたちが元気でやっているか大変気になるところですが、みんな大変元気に頑張っているという話でした。

この間、朝礼で校長の経営計画をきちんと理解しているのだなというくらい、立派なスピーチをしたお子さんがいました。その子は大泉学園緑小卒業のお子さんでした。だからその子はきっと順応できているのです。

そうすると小中一貫教育校かどうかよりも個人の能力の高さとの関係などがあるわけです。大泉学園緑小以外のところからもたくさんのお子さんが来ているわけで、何らかの形で順応し切れていないということがあったとすれば、小中一貫教育校のシステムに問題があるのか、むしろ中学校の選択制度に問題があるのか。その辺のところは解釈が難しいところです。

そこら辺の見通しをどうするか、出てきたデータだけで勝手な解釈をしてしまっても、客観性が担保できないと思います。

**委員**

大泉学園緑小学校の子供でほかの中学校を希望していたのだけれども、そこで抽選に漏れてしまって、大泉桜学園に行かざるを得なかった子どもはどのくらいいるのですか。

**委員**

数字は正確には覚えていませんけれども、何人かいます。

**委員**

指定校制度があるので、数字を出すのは簡単です。

**委員**

満足度の低い子どもたちが、制度としてはやむなく大泉桜学園へ行くことになっているわけですよ。

**委員**

最初から大泉桜学園を希望している子もいる。単に、本校からの卒業生の数だけで比較はできないと思います。

#### 事務局

ここで使うデータは学校生活アンケートになります。1人1人の児童・生徒を3年間経年で追いかけるようなデータ処理をお願いしています。いろいろな条件にある子を1人1人3年間どうだったかというふうにして分類することができるので、一定程度、データで平均値だとか、合計点とかというようなまとめたものの分析にはならないかなと思っております。

#### 委員

データは非常に興味があるところですが、それをどう解釈したらいいかは、データをしっかり読み込まないといけないという感じです。

#### 委員

解釈が難しいということをよく念頭に置きながら分析していただくようお願いしたいと思います。難しいからやらないというのもちょっと違うと思います。

#### 部会長

来年度の進め方なんですけれども、検証部会に出す資料については、データの解釈に誤解が生じないように先生方にご協力いただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

この検証は、大泉桜学園の学校評価ということもあるのですが、一方で小中一貫教育校の検証の仕方についてはどうあるべきかということを経験的に文部科学省に報告しなければいけないという課題を負ってまして、まさにこの資料の、検証の方針などは、最終的な報告に反映されていくことになります。

学校のこういう授業の現状というのは、今のいろいろなところでなされている評価の仕方とはかなり異なって、数値オンリーではないということを中心に強調したスタンスで書かれていて、少しオリジナルな踏み込んだことが記載されています。

それは非常に大事なことだと思っていて、積極的に外に出していくべきだと思っています。けれども、それだけにここで先生方にしっかりご意見をいただいて、最終的なところに反映させていきたいと思っています。

#### 委員

小中一貫教育校になって1年目、2年目、3年目という経年の中で、学校の中の組織的な対応だとか、指導の工夫というのが、変わってきている部分があると思いますが、それによって、子どもが変容してくるという部分が読み取れるようなところもあるといいかと思えます。非常に難しいと思うのですが、学校の中も随分変わってきていると思います。

#### 部会長

開校して1年目の反省を踏まえて2年目の指導があるという形で、どんどんやはり変わりますよね。

#### 委員

教職員の意識が1年目、2年目、3年目と、随分変わっていますよね。そういうのは子どもに随分影響を与えるはずです。

#### 委員

こちらの文言の中に、指導の工夫等の変化という文言があります。その中で検証できるのではないのでしょうか。

#### 部会長

取組の変化が、ひいては指導にどう影響を与え、児童・生徒の変容をどう促したのかという、そういうストーリーですよね。そこを強調していければと思います。

一応資料1は大体このような確認で、先ほどの卒業小学校別のところは特に後で結果が出てきたときに解釈を慎重にという形で、進めていきたいと思います。

次に資料2に移りたいと思いますが、資料2は前回の資料を、前回の話し合いに基づいて修正したものになります。前回と同様に、項目ごとに見ていただいて、確認をしていきたいと思います。

まず、1番ですね。いわゆる学習面、あるいは体力指導面での効果ということで、検証項目がかなり多岐にわたっています。7項目について、検証に活用する資料等があります。ご意見をいただければと思います。

先ほど事務局からも説明があったのですが、修正案でも数値を全く使わないというのはやはり難しいということで、国と区の学力調査結果をどう用いるのかというところが出ています。これもどういう出し方をすべきなのか、もう少し事務局からお話ししたいと思っています。

#### 事務局

この調査の結果の出し方について、この形がいいというようなところまでは、まだたどり着いていないというのが正直なところですが、まだ研究が必要だと思っております。一般にやられているような平均正答率がこうでした、前年度に比べてこうなりましたというだけの、使い方はしたくありません。また数字そのものをこの場に持ち出す考えはございません。

例えば東京都や国とかあるいは学校の平均に比べて、その平均正答率の差が開いたか縮まったかとか、そういった数字の扱い方もあるのかなと思います。そういう使い方であれば、データとしてこういう協議の場に持ち出せるかなと考えています。そういうやり方が本当に適切かどうかはまだ判断できていないのですけれども、事務局で整理をして皆さんにご確認いただいで出すということが1つ考えられます。

ただ、全てでなくてもいいと思っております。意識調査であれば一定程度、そのまま生のデータが使えると思いますから、これは可能かなと思っております。

方法論としてこの手法を大泉桜学園の検証で一切やりませんというわけにはいかないと思います。ここで検討する方法論が練馬区内の他の学校にも活用してもらえたらいいなと思っております。いずれ学校評価の中に組み入れていくことも考えています。そういった評価の作業に入ったときに、学校内ではこういうデータの処理は当然あるだろうと思われるので、ここに残したということでございます。



## 部会長

先ほどの話とかなり重なるのですが、これもどう出すのかということと、その解釈をどうするのかという点で、かなり慎重にならざるを得ないものだと思います。

平均値といいますのは、ごく少数の非常に点数の低い子が存在しますと、非常に引っ張られることになります。ですから、比較的その影響を除く幾つか方法はあります。例えば上下5%を除外して、中間のところの値の平均を見るという考え方や、基準点みたいなのを設けて通過率という考え方があります。平均でもいいのですけれども、この点数がとれば、一応オーケーだろうというところを、区のほうで設定していただいて、どのぐらいの割合の生徒が通過したのかという、そういう考え方の処理もあります。

事務局としては全くここに触れないということは難しいので、何らかの形で出したいけれども、公表する際に誤解を招かないような出し方をしたいという思いとのことです。

## 委員

資料2については、期待された効果が一番左側にきて、9年間のカリキュラムのこととか、それをさらに4、3、2年の区分で着目していくこととか、その方法論として5、6年生の一部教科担任制のこととか、的確に網羅されていて、おおむねわかりやすく対象が絞られてきていると思います。

5ページの特別支援学校の児童・生徒との交流および共同学習の状況についてですが、これは本校の特色ある活動として長年やっています。本校の1年生と相手の1年生と3年生になったら、向こうも3年生。4年生なら4年生と、そういう長いスパンの中で交流をやっています。あちらは小学部、中学部、高等部があって、いわば一貫教育校です。検証に活用する資料で、児童・生徒の感想等となっているのだけれども、今、都立の特別支援学校もインクルーシブとかいろいろな形ですごく大きな課題を背負いながらやっていて、学校運営上難しいところがあるので、特別支援学校の校長とか、副校長でもいいのですが、その辺に精通している人にヒアリングすることがあっていいのかなと思います。

その下の 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって保護者の云々とありますが、まさしく地域の中でこういう魅力ある学校にしていけないと評価してもらえないし、評価してもらえないということは支援してもらえない、子どもも通ってきません。こういう視点で取り組んでいるわけです。

その際、新しい小中一貫教育校ができて、元気な学校が出てきたなという、学校の存在をPRしていかなければいけないので、吹奏楽部がお祭りで演奏活動をしたり、児童生徒会が地域の福祉施設にいろいろな形でボランティア活動に行ったり、かなり積極的に取り組んでいます。

それから、地元商店街を中心に職業体験をやっている。これはよその学校も同じようなことをやっているわけですが、やはり小中一貫教育校のよさを生かすために、8年生がやっているところを6年生が取材活動に行くなど小中一貫教育校ならではの工夫をしています。

ヒアリングにあたっては、福祉施設の施設長とか商店会の会長とか庶務担当や、受け入れをしてくれるときの実際の渉外係というか、調整する人とかにも聞いていただければと思います。

町会の働きは非常に大きいので、町会へのヒアリングが漏れていると思います。

逆に、希望が丘運動公園管理事務所ですが、隣にあって、この公園を使ったりしているのだけれども、私が見たところ、小中一貫教育校がどうのということ意識しているという感じは

していません。

S S C 大泉ですが、練馬区が非常に力を入れている地域スポーツ型の団体で、この S S C の皆さんがいろいろな事業をするにあたっては、こちらも努力を惜しまず積極的にかかわって応援しています。非常に助けられることが多いのだけれども、その事業展開は必ずしも小中一貫校としての事業展開として何かリンクしているかということ、ちょっと違うと思います。小学校と中学校と2校分の学校として、それなりのボリュームで人を派遣してくれたりしているけれども、小中一貫教育のシステムの中での対応とは、違うかなという気がします。

そんなことを感想としてもっています。要望としては福祉施設ほか商店会、町会などの方のご意見も聞いていただければと思います。特に町会などは本校が立ち上がる前の2年間にも準備委員会がかかわっていますから、入っていただいた方がいいと思います。

#### 部会長

大泉桜学園の小中一貫教育校、一体型としての小中一貫教育校としての取組に係る部分でのヒアリングに絞っていくということですね。

#### 委員

小中一貫教育を推進するに当たって、教育委員会や区が、本校にどのような支援や関わりをもっているか、それを評価するという項目がありません。学校だけの範囲で評価していくのか。それとも小中一貫教育校は、基本計画があって、その基本計画に基づいて行っているわけで、基本計画の見直しはどうか。本校が自助努力だけではなくて、教育委員会の支援を受けて行っていくわけで、実はすごくたくさんの支援を受けているという認識を持っています。

一方では、来年度は、特色ある学校づくりの予算が廃止されるわけです。学校としては、一貫校だから特別予算をくださいよということでやっているわけではなくて、ほかの学校と同じような予算枠の中で特色を出す工夫をしていたけれども、基本的にはそこを切られるわけです。一貫教育校の校長として教育委員会に要望書は出していますが、来年度の教育課程の編成は実際どうなっていくのだろうか。特色ある教育が維持できるのだろうかという不安がかなりあります。

そういうことも踏まえて、教育委員会が大泉桜学園の教育活動にどのように効果的にかかわっているかという、そういう検証をしなくてもいいものか。この辺はいかがでしょうか。

#### 事務局

今、ご指摘いただいたことをこの検証項目の中で網羅できているわけではありませんが、この資料2の6ページの で教育委員会の役割という項目は立ててあります。その検証項目や検証の仕方、資料等を、これで適切かどうかという点はぜひご意見いただいて、今の部分を反映できるかなと思っております。

#### 部会長

教育委員会、行政の側が小中一貫教育校の取組に対して、どういう方針でどういう形でかかわっているのかということについての行政担当者の評価ということが、もう1つ必要なのかなと、お話を伺っていて思いました。

#### 事務局

ご指摘点については、具体的な検証の進め方をイメージし切れれておりません。事務局預かりにさせていただきたいと思います。

#### 部会長

全国の小中一貫校がどこでも同じような枠組みの中で、行政の基本方針と支援の中で設置されて、独自の歩みをしていくということでやっていますので、その観点はすごく大事だと思います。

具体的に何をどうというのは、多分すぐには出てこないのだと思いますけれども、具体的なところは少し考えさせていただいてということによろしいですか。

#### 教育企画課長

大泉桜学園についての評価を教育委員会として具体的に検討しているという経過は今のところありませんが、毎年教育委員会では、教育に関する事務の管理および執行状況の点検評価を実施することになっていまして、24年度に小中一貫教育全般について、教育委員会として一定の点検・評価を実施したという経過はあります。大泉桜学園に対する教育委員会の取組としての点検というところまではいっていない状況がありますので、今、事務局から話がありましたけれども、こういった形で検証できるかということも含めて、検討させていただきたいと思います。

#### 部会長

お願いします。次回以降にもう一度検討するというので、引き取らせていただきたいと思います。

先ほどの福祉施設の施設長や商店会、町会の方へのヒアリングというのは、非常に大事だと思いますので、この中にどういう形で取り込めるのか、考えていきたいと思います。

義務教育の公立小中学校の学校運営の中で、大事なのですが、抜けていることが多いと思っています。小中一貫教育校を設置する場合には、地域の理解、地域の協力があって初めて成り立つのですが、その部分はあまり国の議論の中でも触れられていません。活動がうまく遂行されていくには、どうしても地域の方の協力、支援が必要ですので、今回、小中一貫教育校の設置あるいは運営に当たって、地域がどのようにかわり、どういうふうに見えらっしゃるのかというのは、ぜひヒアリングしたいと思います。

#### 委員

練馬区には地区祭という地域的な催し物があります。昨年度、本校を会場にして開催しました。しかし、地域の中では位置的に本校ははずれにあるので、人が集まりにくい状況があります。ある担当の方から、本校でやると集まりにくいから、今後はもう少し住宅地の真ん中にある学校を会場として持ち回ってやってもらったほうが人を集めやすいというコメントがありました。

本校はそういうロケーションの中で、小中一貫教育の特色を出して、それを発信していかな

ければいけないのです。発信するためには当然、人、物、金もかかるし、そして具体的なパートナーを見つけて、地域の教育力を発掘していくようなスタンスでやっていかなければいけないわけで、その1つの大きな連携のパートナーが福祉施設であったり、商店街であったり、町会なのです。だからそこら辺を確認してもらいたい。

やはりよほど魅力があるか、あの学校へ行きたいというものがないと、児童・生徒を確保するのは難しいのです。

あの地に小中一貫教育校という形で、新しいタイプの公教育を作ろうとした練馬区の方針は、私は非常にすばらしいと思っています。だから基本計画に基づいて学校としては努力しているので、そこはどうかという評価をしていただきたいと思います。

#### 部会長

今のところは早速、5のところに入れていきたいと思います。

ほかに特に資料の2を中心にご意見をいただければ。

基本的には前回の検討に基づいた整理ですので、確認済みということによろしいですか。

#### 教育企画課長

大変検証項目が多岐にわたっています。大泉桜学園の取組を検証するためには、多分このような多岐な検証項目が必要だと思えますし、またそれを1つ1つやっていかなければいけないとは思いますが、一方で施設が離れた学校間で小中一貫教育の評価をしていくということになると、なかなかやはり詳細多岐にわたるというところは難しい部分も出てくると思えます。

その意味では、全般的におしなべてやることも重要ですが、例えばこのところに重点を置きましょうというものがもしあれば、皆様方からご意見をいただいとくと、ほかの学校で例えば学校評価などを活用しながら点検するとき、使えていくのかなということもありますので、もしそういうことでご意見があれば、いただきたいと思えます。

#### 部会長

わかりました。

基本的に、総論的に全体の概況を個別に丹念に評価していくというスタンスでやっていますが、確かにそうですね。他校と共通して受ける小中一貫教育の評価という視点もありますね。

#### 委員

学習面では、今、練馬区では小中共通のカリキュラム、お互いに中学のこと、あるいは小学校のことを理解したカリキュラムを組んだ授業を、理解しながら授業できるようにしましょうという話になっていますけれども、分離型の場合はお互いの理解はなかなか進みが悪いのです。大泉桜学園の中ではそれは短期間のうちにかなりの理解が進んでいると思うのですが、お互い理解したことが、どれだけ学力向上につながっていったのかということが、非常に興味があるところです。

もう1点は生活指導の問題で、一般校では6年生の姿を見て下級生が成長していくわけですが、9年生の姿を見て成長するところが小中一貫教育校ではありますね。その6年生の

姿と9年生の姿の違いがやはり効果があるのかどうかというのは、非常に興味があります。

教員が、小中のカリキュラムをある程度把握したことによる授業の充実などについて、見本ができればと思います。

#### 部会長

今のところは、資料2の2ページですね。資料では習熟度に応じた指導や補充的学習に限定して書かれています。検証に活用する資料で、教科授業に関する校内研究や教員同士の連携に関する関係者からのヒアリングということが書いてあるのですけれども、その次の校内研究における関係者から、関係教員からのヒアリング等のところに、もう少し広げて、お互いに小中の籍の教員が、相互理解を深めたことで、指導がどういうふうに見直されていったのかを聞くということが必要なのかなと思います。

#### 委員

個々の教員がもっている自分の授業スタイルが、小学校の先生や中学校の先生の授業の話を書くことによって、変化があったかということですね。

#### 部会長

例えば評価評定に関する教職員からのヒアリング、一部教科担当制を担当した教員からのヒアリングなど、学習面での教員に対するヒアリングの中で、今、話があったようなことについて少ししっかり聞く項目を用意しておいて、少しそこに重点を置いて小中一貫校になって自分自身の指導について振り返って見直したことは何かを明らかにしていくという作業が必要だと思います。

#### 委員

それが出てくると、ほかの学校の校長が小中一貫教育を進めることの意義というのを教員に示すことができます。大泉桜学園ではお互いの理解を進めるからこのように授業や意識の改善が進んでいっている。だから、あなたたちも近所の学校の中学校と連携して研究を進めていかなければいけませんよというような話を校長ができる材料になる。4、3、2の区分が有効だと言われても、ほかの学校の校長は、どうせうちはできっこないというのが先にきてしまいます。

学習面と授業の改善と生活指導の変化ですね。

#### 部会長

生活面でも同じようなことですよね。小中で。

#### 委員

生活指導は指導者側の意識の変化というものもあるのですけれども、子どもの意識の違いがあると思います。中学生の姿、特に最上級生の姿を見て、ああいうふうになりたいと思ったりとか、一般校であれば、中学校の行事に参加したりしながら中学生の様子を見たりといった活動が非常に重要なのだということを、もし大泉桜学園で言えるのであれば、それは資料をもとに

そういったことを考えていくことはできるのではないのでしょうか。

**部会長**

そうですね。異年齢交流の仕方とかですね。

**事務局**

教員の意識とか授業改善に対する受けとめといった部分について、この検討資料のまとめの中では、あまりきちんと整備できていないなと感じました。教育委員会として小中一貫教育研究グループや、大泉桜学園教員にとっている意識調査がございます。その中で、例えば小学校籍の教員と中学校籍の教員の間で、学習指導法に関する相互理解が深まったと思いますかというのが、最初の質問にあるのですけれども、こういった意識調査の項目が使えるのであれば、それも1つの材料になるのかなと感じました。

**委員**

意識の違いというのを感じて、そして自分の授業スタイルに取り入れて、それを生かしていたかというところでちょっと突っ込んで聞いてみたいと思います。

**事務局**

続いて、小中一貫教育校の経験を通して、日々の授業で9年間の系統性を意識するようになるなど、自身の授業改善につながっていると思いますかという質問が出てきます。これは教員がどう感じたかというところを聞いている部分を中心なので、これの有効性についてはしっかりと検証したいと思いますけれども、材料になるのかなとは感じました。

**部会長**

今のようなアンケート結果ももちろん使えますし、後で検討する担当の先生方へのヒアリングの中で、こうやって小中一貫教育校で共同して指導する中で、自分で気づいたことを指導に反映させていったことを別途聞くような形をとれば、かなり出てくると思います。

**委員**

ほかの学校から見て、例えば50分授業などはまず絶対無理な話です。

でも大泉桜学園としてはこれは検証しなければいけない問題なので、必要なのですけれども。

**委員**

私は小学校で50分授業をやっていたほうが良いと思っています。なぜならば、20分の休み時間をとるために、そのほかの休み時間は5分になっています。5分で子どもたちが教室を移動したり、前の時間に体育だったりすると、着替えをして次の授業の準備にきちっと座って、45分の授業時間を確保するという実態が本当にあるのだろうか。実はあの20分の間休みをとるために、業間5分では、子どもが着替えたりとか、次の授業の準備をしたりとかというのは、難しいなと思っています。

全科を教えている先生が、自分の1日のスケジュールの中で調整しているから破綻は生じな

いけれども、規律だとか授業時間をちゃんと45分確保して、そこでちゃんと授業を展開していくというところが、意外とうまくいっていないのではないかと考えています。

中学では教科担任制で50分の授業時間で、ぴしっとやっていかなければならない。そのギャップが中1ギャップといわれる1つの要因になっていると思っています。本校では5、6年生は休み時間を見直すことによって、円滑になっているというふうに自己評価しています。子どもからも10分のほうがゆとりがあるという声が出てきています。

50分授業とか、あるいは10分間の業間というものをきちんと確保することは、中学に時程をそろえるという言い方になってしまうから、結論を急いでいっているわけではないのだけれども、中1ギャップということ考えたときには、授業時間を実質的に45分きちんと確保するための円滑なシステムづくりについて、この研究で、成果を出すことによって、1つの提案になっていく要素は私はあると思っています。

「よく学び、よく遊べ」というのは、子どもを育てる最大原則だから、20分休みを否定しているわけではないのだけれども、小中一貫教育という小学校と中学校の公教育の何かを見直すためには、そこら辺のところもきちんと目配りしていかなければいけないのではないかと、私は小中一貫教育校をやらせてもらって、すごく感じました。

教員が時間どおりに教室に行っていて待っていると、子どもたちが帰ってこない、遊んでいたわけではないけれども、前の時間が水泳の授業だから、髪の毛だってまだ水がしたたっているような子たちがやっと教室に戻ってきて、5分ぐらい食い込んでから、さあ国語の授業ですよ、算数の授業ですよといっても、やはりまずいなと思います。

子供たちに強力なリーダーシップを育てるという視点で4、3、2の区分でやっているけれども、何も6年生になるまで、リーダー育成を大事にとっておく必要はないということです。リーダー教育は早期教育のほうが子どもにとっては実はいいのではないかと思います。そういうふうにして力をつけさせることが、段差を乗り越えられる力を育むのではないかなという感じでした。

ハードルを取っ払ってあげて、すっといくということではなくて、ハードルは歴然と人生の中にあるわけだから、それを飛び越えさせるための跳躍力をつけさせる。そのために私はリーダー養成という考え方も、6年生だけがリーダーという位置づけではなくて、成長の節目が4年生でもいわれているわけだから、10歳のその辺の節目のところで、小学校教育でも何らかの形でリーダー養成をすることを考えても良いと思います。

小中一貫教育校になる前は、1年生から6年生までの異学年交流をやっていたわけだけれども、あえて5、6年生は別にして、1年生から4年生までで異学年交流をやって、4年生に5、6年生の担っていた班長の役割を担わせるなどリーダーとして養成することによって、4年生にもできるわけだから、5、6年生にはさらに上のリーダー養成ができるわけです。

もしそれが成果があるとすれば、通常校の中でも少なくとも考え方とか発想という点では参考になるのではないかなと思っています。

## 委員

それはそのとおりですね。4年生にもう少しいろいろな役割を割り振ってもいいのではないかなというのは、大泉桜学園の姿を見て、他校は参考になると思います。

#### 部会長

大泉桜学園独自の取組の中で、他校に向けて参考になるような方向性をもって検証するような項目として、特に4、3、2の区分の、特に4のところ、50分授業の考え方、取組についてどうかということ、そういう独自の取組の評価を他の学校に対して発信していくということと、小中で合同で指導していく中で、どういうふうに役立ち、それが指導にどう反映していくのかという項目、それはすぐにも他の学校の先生方にも非常に意味のあるご発言です。二段構えといいますが、独自の取組の評価を外に対して発信するものと、全体として共有できるような問題・関心で評価する部分をあわせてこの中で評価していくという考え方がなと思います。

#### 委員

それでいいと思いますが、やはり開校して1年目、2年目というのは、もう学校運営の工夫、改善、改良の連続です。

どういうふうに円滑な学校運営ができるようにするか。その中で特色をどう出していこうかという取組の中で、教科指導の研究ができていないのが実情です。それで、今年になって一定の学校運営のシステムがまあまあできてきているかなと思って、9年間を見据えた教科指導の研究を本格的に取り組もうと取り組んでやっているわけです。

それで考えたのは、子どもがつまずきやすい単元を検証して、新たなカリキュラム開発をしたり、つまずきやすい単元の取り扱い方をどうするか、算数、数学のラインで考えていくとか、そういうレベルで今、研究に入ってきているわけです。

だから、小中一貫教育校になったから、自分の授業スタイルがこういうふうに大きく変わったとか、授業の中でこのように改善されるようになったというのは、そんなに大きく形として結実しているわけではなくて、これからです。

今年からやり始めて、3年計画で平成27年に、教科を中心とした研究発表をさせていただくことで、成果と課題を持っていきましょうと校内で話しているので、検証に間に合うか難しいし、ダイレクトに教員に聞いても、授業スタイルが変わったり、授業の何かが変わりましたというふうには、恐らく数値としては出てこないと思います。

同時進行で見ていただくということを理解していただかないと、ちょっと難しいかなと思います。

#### 部会長

開校して日が浅い学校の中で、先生がおっしゃるとおり、今、こういう方向で取り組みつつあるという姿が出てくればいいのだと思います。それがある程度まとまった成果として出るのは、もう少し先のことだと思います。

#### 委員

それともう1つ、小学校の評価方法と中学校の評価方法があまりにも隔たりがあります。

これをどうするのかということは非常に大きな課題です。評価の研究をやり始めたら、膨大なものになるので、本校だけで研究を受け切れるものではありません。ただ、小中一貫教育校ですから、5、6年生も中学生と同じような生活をさせていて、成績の出し方が今のままでいいのかとか、通知表だって1つの学校として出しているわけだから、いわゆる小学校はこうい



うふうに成績を出していますよとか、新学期には保護者会で説明しているけれども、成績の出し方とか取り扱ういろいろな成績の資料とか、扱いとかというのは小中で大きな差があります。

だから、中学校籍の教員が6年生とか5年生を教えたときに、中学のやり方で出してしまったら、子どもも親もびっくりしてしまうし、成績が現実には円滑に出ません。それも公教育の段差になっているわけです。だけれども、評価そのものの研究を本校で請け負ってやれるかという、それは現実に無理ですね。

評価と指導の一体化というのはすばらしい理念だと思っているので、やはりそこに本来手が入らないと、授業改善はできないのではないかなという気はしています。

だからやめようではなくて、本校の校内研究とともに検証も歩んでいただいて、校内研究をやっているときには、部会長の先生にも、そういったところに入ってもらって、雰囲気を知ってもらおうとか、ここのメンバーの人たちも機会があれば入っていただくようにして検証してもらおうとか、校内研究の状況を見取ってもらうという方法もあると思います。

#### 部会長

あくまで今回の検証は、どんどん進んでいく途中段階での検証作業なので、今こういう方向で取組がなされつつあるというところを、見取ってどういう形でそれを具体的に検証結果として盛り込めるか考えていきたいと思います。

あと30分ぐらいしかないので、資料3も含めて、少しご意見いただければと思います。先ほどのお話で、地域の方に幾つか聞く必要のあることがありました。この方々にどういうことを聞くのかヒアリングの内容のほうにも盛り込んでいきたいと思いますが、全体を見ていただいて、ここにこういうのが必要ではないかとか、あるいはここまではむしろ不要ではないかとか、そうしたところがあればお願いします。

恐らく児童・生徒については児童生徒会役員という、非常に限定された対象へのヒアリングですので、これぐらいかなと思いますし、保護者、地域等については先ほどご意見いただいて、少し考え方が見えてきました。教職員へのヒアリングには、こういう観点が必要ではないかとか、あるいはこういう方に聞くべきではないかとか、などのご意見があればお願いします。

#### 委員

心の相談の問題については、心のふれあい相談員だけでなく、それぞれの小中に、スクールカウンセラーがいると思います。

#### 部会長

今後、微調整がどうしても生じてくると思います。現段階ではこういう方にお聞きするということから始めていますが、この方に聞けたからもう大体これで大丈夫ではないかということもあると思いますし、反対にもう少しこの方にお聞きしないとこの部分がわからないということが出てくるかもしれません。

地域の方のはもちろん盛り込みますけれども、先ほど話があった運動公園管理団体関連は削除を検討します。ほかはいかがですか。とりあえず現段階ではこのような形で進めてよろしいでしょうか。

#### 事務局

ヒアリングの対象と内容ということで整理をしておりますけれども、検証項目や実際にヒアリングする質問の内容を具体的に考えたときに、直接会ってお話を聞かなくても、意識調査のような形で済む質問になりそうだとということであれば、そちらにシフトするということもあり得るかなと思いますので、あらかじめご了解いただきたいと思います。

ここに書いてあることは必ず対面式にヒアリングを全てするのだというふうに、現時点では決め切れないかなという要素もありますので、今後の質問項目を考える際に、一部変更をしていくことをご了解いただきたいと思います。

#### 委員

ヒアリングには相当な膨大な時間がかかります。教員も忙しくて、何回も何回も足を運んでも会えないという状況になってしまう場合もあります。逆にいうと、代表者1人でもいいのだけれど、例えばここに書いてある校内研究における算数、数学科の代表者といったら、算数、数学だから1人では無理です。今のような方法で簡素化させていったほうがいいと思います。

#### 部会長

網羅しようとするとうどんどん対象者が広がってきてしまって、ヒアリングするのも大変ですし、ヒアリングした後のまとめをどうするかというのも大変な問題です。

#### 委員

ヒアリングの時間が確保できないと思います。

#### 部会長

具体的にどなたに何を聞くのかというところをしっかりと考えて、現在ある資料で代替できるものは、積極的にそちらを使うという方向でいきたいと思います。その方針でもう一度精査して、ヒアリングの対象を絞り込んでいきたいと思います。

#### ( 3 ) 平成 26 年度の検証計画について

#### 部会長

案件 ( 3 ) 平成 26 年度の検証計画ということで日程表の説明をお願いします。

#### 事務局

( 資料 4 説明 )

#### 部会長

やっていく中で少しずつ時期がずれていくものもあるかもしれませんが、当面の見込みとしては、このような形で進めていきたいと考えています。先ほどのヒアリングは、1学期の終わりから夏休みのあたりに先生方にお伺いすることを考えているのですが、先生方もお忙しいの

で、できるだけコンパクトにまとめていきたいと思います。

何か、この日程のことでご意見があれば。

**委員**

6月の2回目というのが、内容が非常に盛りだくさんですよ

**部会長**

確かにそれはそうですね。1回目、2回目で次の夏休みに入ってしまうと、9月より前に固めないといけないものですから、確かに6月2回だけでは難しいかなと。

**事務局**

6月、検証の内容として施設整備、学校組織について入れてありますが、ヒアリングを前提にしている検証項目になっていますので、ヒアリングなしでできるデータがそろうようであれば予定どおり進めてまいりますけれども、ヒアリングも含めてという状況であれば、9月以降に延びることも予想できます。

6月のあたりはヒアリングとか、あるいは学校生活アンケートを実施したいと考えていますので、ヒアリング等の基づくデータとはかかわりの少ない項目を検討していただきたいと思っておりますけれども、現時点でこういう予定で考えております。

また次年度の計画を具体的に進める中で、調整したいと思っております。

**部会長**

わかりました。1回1回の検討内容が確かにかなり盛りだくさんになっています。できるだけ少ない回でまとめていこうというのが、原案ですから。相談しながら進めていきたいと思えます。

とりあえずたたき台としまして、こういう方向で進むということではよろしいでしょうか。

来年度は、初回が5月、幾つか宿題をいただいているので、それに基づいて、この資料を修正しなければいけないところがありますので、もしかすると先生方にも事前に見ていただくようなことになるのかもしれませんが。その際にはよろしく願います。

では、以上で終了いたします。

(閉 会)